

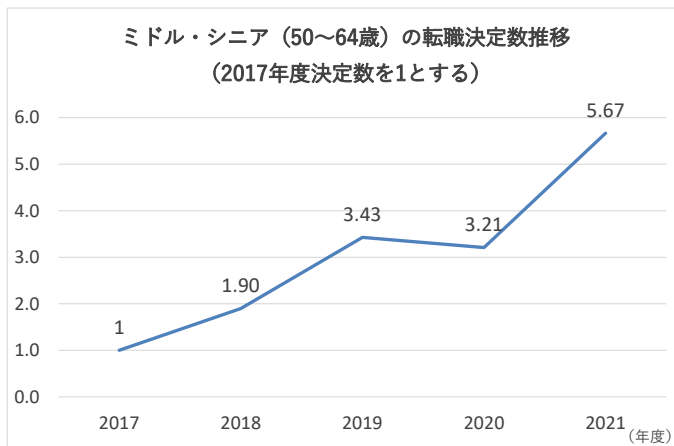
ミドル・シニア（50歳以上）の転職動向

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）は、ミドル・シニア（本レターでは50歳以上）の近年の転職動向について、データと事例からまとめましたので、お知らせいたします。

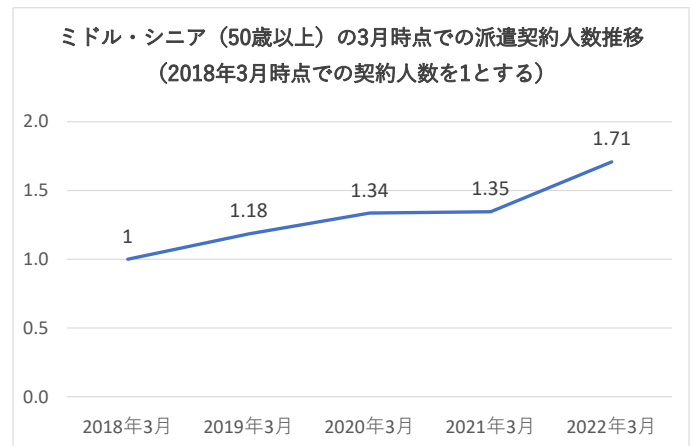
1 ミドル・シニアの転職が増えている背景とは？

ミドル・シニアの転職やキャリアチェンジは近年増加しています。背景には労働市場の3つの変化がみとれます。

1. 構造的な人材不足により、求人数が増加している
2. D&Iの考え方が企業に浸透し実行フェーズになり、シニアをはじめとする多様な人材の活用が進んでいる
3. 企業が人材を採用する際に、個人の経験や能力が年齢に関わらず評価されるようになってきている



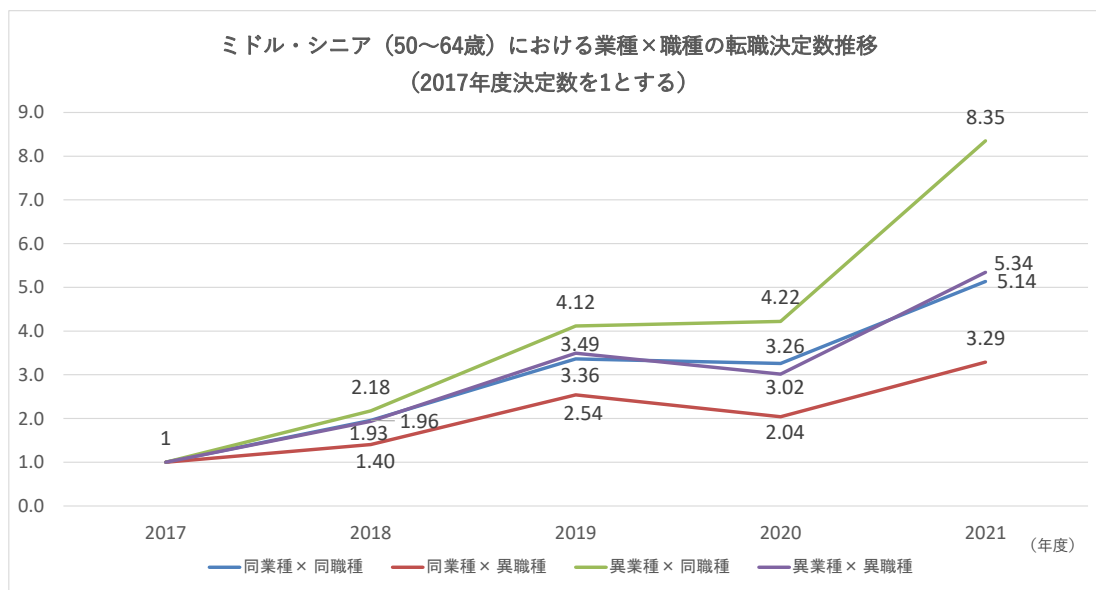
出所：リクルートエージェント



出所：スタッフサービス・ホールディングス

2 越境転職が増加傾向

ミドル・シニアの業種×職種の転職決定数の推移をみると、業種、職種のいずれかを変えた越境転職が増加傾向にあることがわかります。特に、「異業種×同職種」の転職決定数の増加が顕著であり、2017年度の決定数を1とすると、2021年度では約8倍となっています。企業側の背景には、戦略が多角化する中、「異業種人材を採用したい」というニーズがあり、転職者側の背景としては、「自身の専門性を活かして興味のある分野や業種にチャレンジしたい」という傾向があると考えられます。

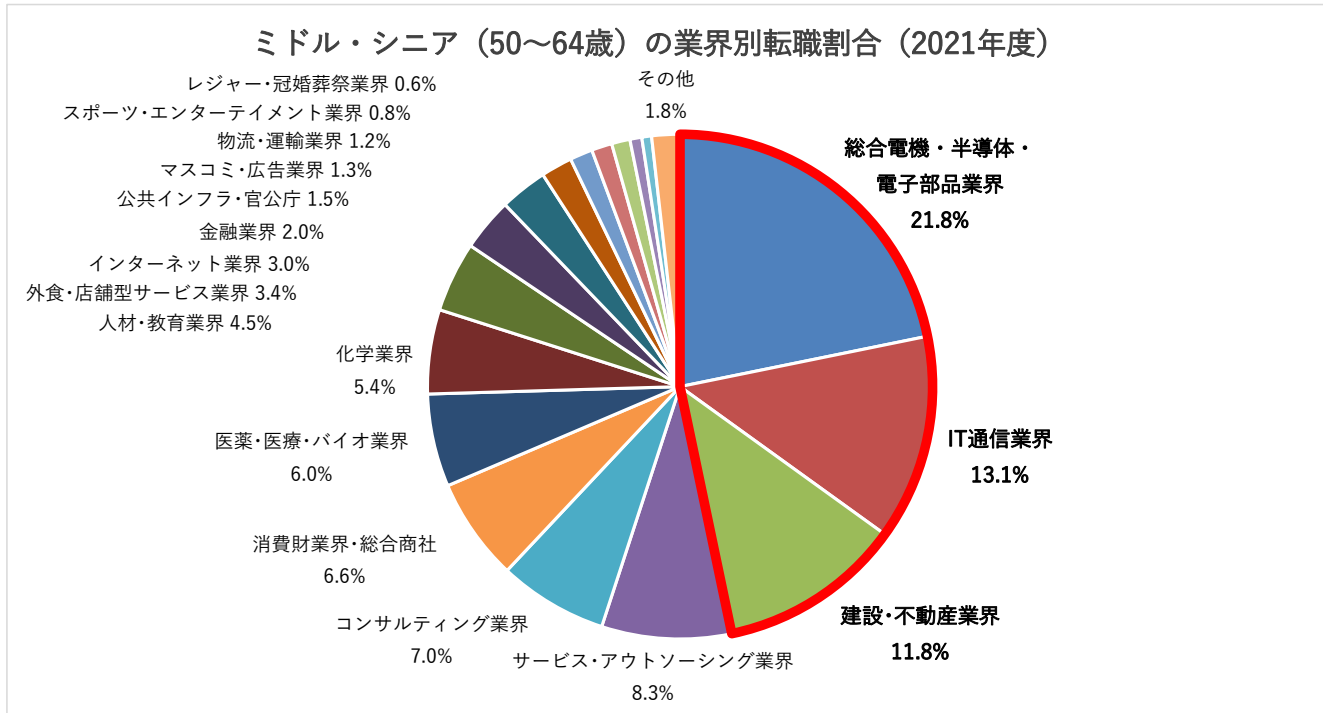


出所：リクルートエージェント

3 転職先の業界は？ 総合電機・半導体・電子部品（製造業）業界の割合が高い

ミドル・シニアの転職先の2021年度の割合をみると、「総合電機・半導体・電子部品業界（※）」「IT通信業界」「建設・不動産業界」が高く、年功序列制度を採用してきた企業も、年齢に関わらず経験や能力を評価し、シニア採用を進めている様子がみとれます。

※電気・電子・機械業界の専門商社含む



出所：リクルートエージェント

4 50代の転職意向者は約4割

転職意向者の割合は年代が上がるにつれて低くなる傾向ですが、50代の約4割が転職を考えています。

「就業者の転職や価値観等に関する実態調査2022」第1弾 転職経験や転職意向等について

https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2022/0922_11663.html

「就業者の転職や価値観等に関する実態調査2022」第2弾 転職と勤務先の合致度・満足度について

https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2022/1020_11743.html

■ 今後の転職意向状況（現在「正社員・正職員」の20～50代就業者/単一回答）

凡例	転職意向者				転職非意向者	転職意向・計	現在活動中・計
	現在転職や就職を したいと考えており、 情報収集程度だが 転職・就職活動 をしている	現在転職や就職を したいと考えており、 実際に応募以上の 転職・就職活動 をしている	現在転職や就職を したいと考えている が、転職・就職活 動はしていない	いずれ転職や就職 をしたいと思います	転職や就職をする つもりはない		
20代 n=2214	17.7	11.4	14.1	22.7	34.1	65.9	29.1
30代 n=2048	12.5	9.6	13.1	23.3	41.5	58.5	22.1
40代 n=1862	8.2	7.7	13.4	20.6	50.2	49.8	15.8
50代 n=1680	5.6	4.5	14.2	15.2	60.5	39.5	10.1
全体 n=7804	11.5	8.6	13.7	20.7	45.5	54.5	20.0

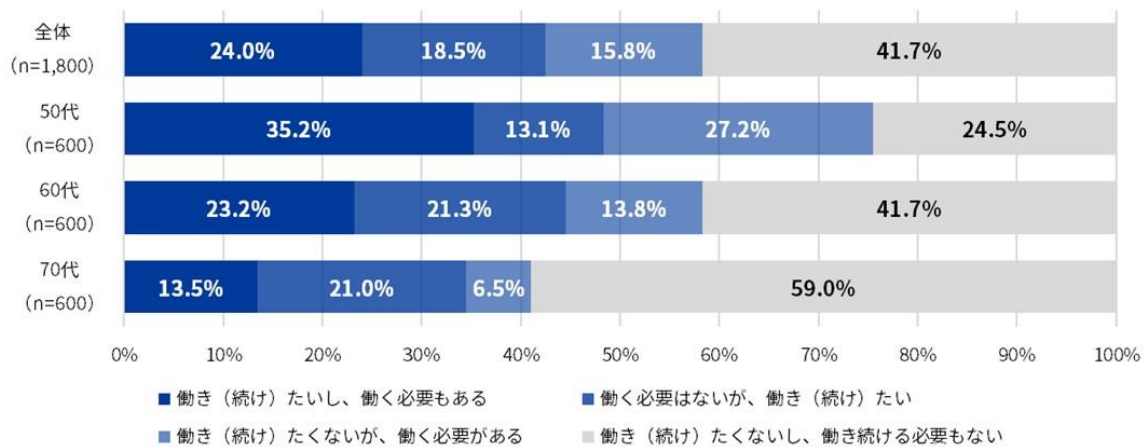
5 60代、70代の就業意欲が増加

Indeedの調査によると、50代～70代の58.3%が、シニア期（60歳以降）も「働きたい」もしくは「働く必要がある」と回答しています。また、セカンドキャリアの実践者（60歳以降も働くことを見据えて行動し、現在就業している人）からのアドバイスとして、「自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い」がトップ項目にあがっています。シニア期の働き方を考える上では、まず早いうちから考え始めること、そして自分のスキル・能力を整理することが大切であると言えます。

「シニア世代の就業」に関する意識調査

[「シニア世代の就業」に関する意識調査を実施 - Indeed プレスルーム | 日本](#)

図1 シニア期に働く意欲・必要性（50代～70代／単一回答）



出所：Indeed

表3 これからシニア期の働き方を考える人へのアドバイス
(セカンドキャリア実践者 n=343／複数回答)

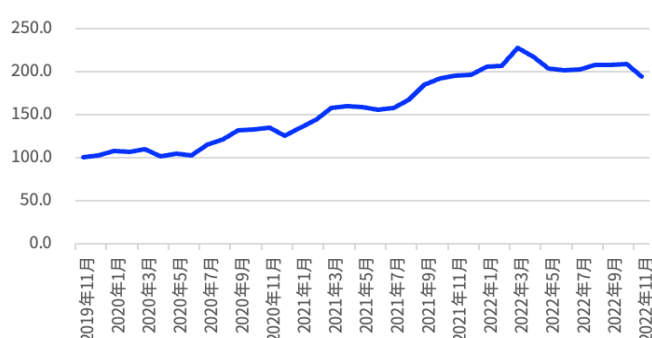
1位	自分のスキル・能力を整理しておいた方が良い	32.7%
2位	60歳以降のお金の問題について詳しく知っておいた方が良い	31.5%
3位	早いうちから、考え始めた方が良い	28.9%
4位	働き方／働くスタイルについて、考えておいた方が良い	25.1%
5位	パソコンがうまく使えるようになっておいた方が良い	24.5%

出所：Indeed

また、Indeed上での求職者の検索状況を分析すると、「60代」に関する検索は3年間で93.8%増加、「70代」はさらに増加傾向にあり、3年間で341.7%増加となりました。このことから、シニア世代の就業意欲は高まっていると考えられます。

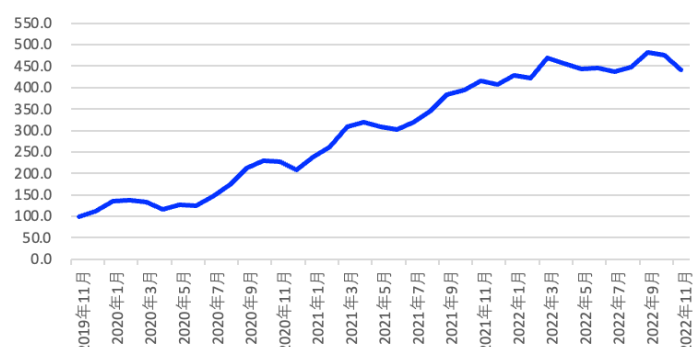
「60代」の検索推移

2019年11月を100とした時の増加率



「70代」の検索推移

2019年11月を100とした時の増加率



【注】本データは、2019年11月～2022年11月における、Indeed上での「60代/60歳」および「70代/70歳」をキーワードに含む検索数の推移を、2019年11月を100とした時の各月の割合で示す。

出所：Indeed

6 実際の活躍事例

①リクルートエージェントの事例（正社員領域）

●きっかけは、役職定年、Uターン、キャリアの再考が多い

転職者によって事情は異なるが、大きな傾向としては以下の3つが挙げられます。

①役職定年

役職定年を迎えた方、もしくは間近の方で、その後の年収や任される仕事に満足いかないことから転職を考えるケース。元々転職意欲は高くないことも多く、初めて転職を考えたという方も多い。

②Uターン

地元に戻って貢献をしたいと考えるケース。地方出身の方で首都圏や名阪の大手企業に就職した方が多い。

③キャリアの再考

子育てやローン返済も落ち着き、残りの人生、キャリアをどうしたいかを考えて転職も視野に入れるケース。

その他、専門性が高い方の中には、社内の人間関係が良くない場合に、気持ち良く働ける職場を求めて転職を考えるケースもあります。

また、企業側では、中小企業で管理職が育たないという理由から、50代以上の受け入れが進んでいます。

②スタッフサービス・ホールディングスの事例（派遣領域）

主に人材派遣を展開するスタッフサービスグループでは、ミドル・シニア（50歳以上）の派遣契約数が拡大しています。

派遣という働き方は、自由度が高く、働き手の希望に沿った就業日数や時間、勤務地が実現できるため、就業に結び付きやすいという利点があります。さらに、当グループの担当者がこれまでのスキルや経験に加え、シニアならではの、長年の人生で培った自立心、忍耐力、豊富な知識や、人間関係構築力などを評価し派遣先企業へ提案することで、新たなシニアの就業機会を生み出しています。

●60代でITの開発案件に

前職：ITエンジニアでご経験を積まれていたが、定年までの5年間は経理部門の管理職に従事。

現在：ITエンジニアとして複数の案件を担当。若手には経験者が少ないCOBOL言語を使えることから即戦力として活躍。働きがいもアップ。

マッチングのポイント：

シニア層は若手のエンジニアが経験していない領域の経験を持っていらっしゃる方がおり、マッチング次第では持ち味を活かした活躍ができる可能性を持っている。「エンジニアとしてもう一度最前線に立ちたい」と願うシニア層と、特定の技術の知見が欲しい企業をつないだことがポイント。

●転職事例

①役職定年×ベンチャー転職（50代後半）

前職：事務職、経理部門の部長で役職定年に

転職先：小規模ベンチャー

ポイント：役職定年後居心地が悪くなりやりがい求めて転職活動。自身の経験を社会に還元したいという軸でマッチング。転職先企業にも、幅広く対応できる柔軟性がフィット。

②地方Uターン×専門スキル（50代）

前職：法人営業、食品卸にて仕入れ

転職先：地元の行政書士事務所

ポイント：親の介護を見据えて地元に戻りたいというご希望。独学で行政書士資格を取得して、地元の事務所で営業経験が必要とされる求人があり、転職決定。

③キャリアの再考×専門性・技術（50代半ば）

前職：ITエンジニア

転職先：特定領域のコンサルティング企業

ポイント：自身のキャリアから、このまま管理職に上がるのではなく、専門性・技術を磨きたい、新しいことにチャレンジしたいとキャリアを見つめ直し転職。

★他にも、事務系の方や、高い専門性が必要とされる職種以外にも転職事例が生まれています。ハイクラスの方だけでなく幅広い年収層で転職者が増加しています。

●77歳、タクシードライバーから介護業界へ

前職：タクシードライバーとして30年以上勤務し、定年退職。退職後は地域活動やボランティアなどに従事。

現在：介護・福祉施設の職員。主な仕事内容は、利用者施設まで送迎することと、食配センターから弁当を各施設に届けること。週3日・1日3～4時間勤務。

マッチングのポイント：

介護・福祉業界は国や自治体の制度の影響が強く、資格の有無などスタッフを紹介する上での条件が厳しい側面もある。一方で、施設によっては資格が必須の仕事と資格がなくてもできる仕事に分けることで、幅広い人材の活躍を実現しているケースがあり、今回はタクシードライバーの経験と、送迎・運搬というドライバー経験の接点がマッチングのポイントになった。